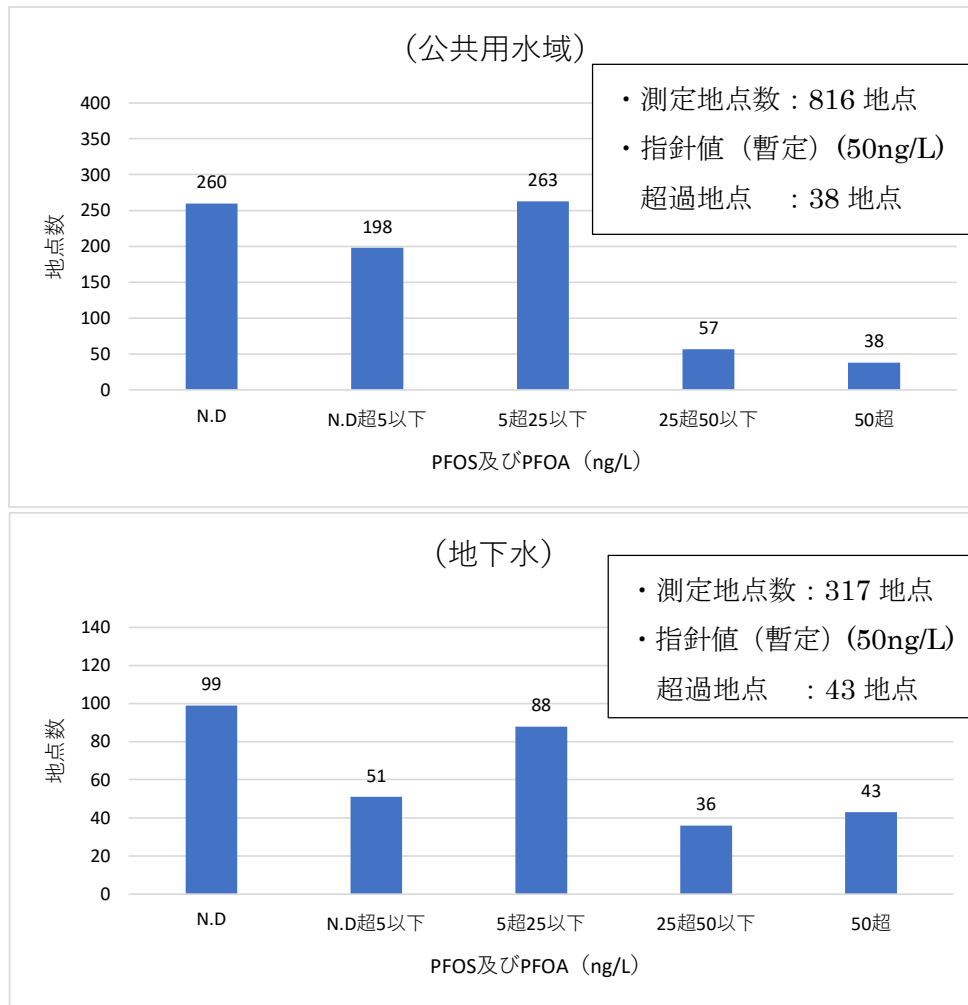


## PFOS、PFOA の国内の検出状況

## 1. PFOS 及び PFOA の検出状況

令和3年度の公共用水域・地下水質測定結果（常時監視）から、令和3年度に都道府県等が実施したPFOS及びPFOAの検出状況の収集及び集計を行った。

結果を図1に示す（公共用水域・地下水）。また、令和3年度以前の検出状況等については別紙に示す。



注1: 定量下限値（報告下限値）は測定地点によって異なる（0.3～10ng/L）。

注2: 同一地点において複数検体測定している場合は平均値を採用。

図1 公共用水域等におけるPFOS及びPFOAの検出状況（令和3年度）

## 2. 指針値（暫定）を超過した地点の対応状況

令和3年度においてPFOS及びPFOAの指針値（暫定）（合算で50ng/L）の超過が確認された地点については、超過した水が飲用に供されないよう、都道府県等において必要に応じ、当該井戸の所有者等に対して指導・助言等を行うなど「PFOS及びPFOAの対応の手引き」（令和2年6月）に基づき対応されている。

(別紙)

公共用水域等における PFOS 及び PFOA の存在状況については、環境省において表 1 に示すとおり各種調査を行っている。PFOS 及び PFOA の各種調査の概要を表 1、公共用水域等における検出状況について表 2～表 5 に示す。

表 1 公共用水域等における PFOS 及び PFOA の存在状況に関する調査の概要

調査名	概要
公共用水域等水質測定（常時監視）	実施年度 令和 2 年度～ 調査目的 公共用水域等での存在状況を把握するため 測定地点 環境基準点又は補助点
有機フッ素化合物全国存在状況調査	実施年度 令和元年度、令和 2 年度 調査目的 有機フッ素化合物の排出源となり得る施設周辺における存在状況を把握するため 測定地点 有機フッ素化合物の排出源となり得る施設の周辺
要調査項目等存在状況調査	実施年度 平成19年度～平成26年度 調査目的 要監視項目等への位置づけの見直しに向けた基礎情報収集のため 測定地点 過去データにおいて濃度の高い地点等
化学物質環境実態調査 （モニタリング調査）	実施年度 平成21年度～平成24年度、平成26年度～平成28年度、平成30年度～令和 2 年度 調査目的 ・化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）の特定化学物質等について、一般環境中の残留状況を監視するため ・POPs条約への対応として条約対象物質等の一般環境中における残留状況の経年変化を把握するため 測定地点 特定の排出源の影響を直接受けにくいような地点であり、調査水域での代表的と考えられる地点

注 1：PFOS 及び PFOA は平成 25 年度に水質に関する要調査項目、令和 2 年度に要監視項目となった。

注 2：PFOS は平成 22 年度に、PFOA は令和 3 年度に化審法の第一種特定化学物質となった。

表 2 公共用水域等における PFOS 及び PFOA の検出状況  
(令和 2 年度、令和 3 年度公共用水域等水質測定 (常時監視))

公共用水域					地下水				
年度	測定 地点数	検出 地点数	指針値 (暫定) (50ng/L) の超過状況	濃度範囲 (ng/L)	年度	測定 地点数	検出 地点数	指針値 (暫定) (50ng/L) の超過状況	濃度範囲 (ng/L)
			超過地点数					超過地点数	
2020 (R2)	30	15	0	0.4~25	2020 (R2)	-	-	-	-
2021 (R3)	816	556	38	0.2~340	2021 (R3)	317	218	43	<0.3~1800

注 1 : 定量下限値 (報告下限値) PFOS 0.1~5ng/L、PFOA 0.1~5ng/L (自治体により異なる)

注 2 : 年間平均値で評価

注 3 : 直鎖体と分岐異性体の合計値を採用

出典 : 環境省 公共用水域水質測定結果 (<https://www.env.go.jp/water/suiiki/index.html>) ただし、検出地点数及び濃度範囲については本資料で独自に集計

環境省 地下水質測定結果 (<https://www.env.go.jp/water/chikasui/>)

表 3 公共用水域等における PFOS 及び PFOA の検出状況  
(令和元年度、令和 2 年度有機フッ素化合物全国存在状況調査)

公共用水域					地下水・湧水				
年度	測定 地点数	検出 地点数	指針値 (暫定) (50ng/L) の超過状況	濃度範囲 (ng/L)	年度	測定 地点数	検出 地点数	指針値 (暫定) (50ng/L) の超過状況	濃度範囲 (ng/L)
			超過地点数					超過地点数	
2019 (R1)	119	115	19	<0.3~1508.1	2019 (R1)	52	46	18	<0.3~1855.6
2020 (R2)	85	81	7	<0.3~450	2020 (R2)	58	51	14	<0.3~5500

注 1 : 定量下限値 (報告下限値) PFOS 0.1ng/L、PFOA 0.2ng/L

注 2 : 令和 2 年度の調査結果は有効桁数 2 桁で処理した値を掲載しているため、「PFOS+PFOA」の値は必ずしも「PFOS」及び「PFOA」の結果の合算値とは一致しない。

注 3 : 直鎖体と分岐異性体の合計値を採用

出典 : 環境省 有機フッ素化合物全国存在状況調査 ([https://www.env.go.jp/water/pfospfoa/post\\_123.html](https://www.env.go.jp/water/pfospfoa/post_123.html))

表 4 公共用水域等における PFOS 及び PFOA の検出状況  
(平成 19 年度～平成 26 年度要調査項目等存在状況調査)

公共用水域					地下水				
年度	測定 地点数	検出 地点数	指針値（暫定）（50ng/L） の超過状況	濃度範囲 （ng/L）	年度	測定 地点数	検出 地点数	指針値（暫定）（50ng/L） の超過状況	濃度範囲 （ng/L）
			超過地点数					超過地点数	
2007 (H19)	45	45	2	0.19～383	2007 (H19)	5	5	0	0.7～16.3
2008 (H20)	8	8	5	13～418	2008 (H20)	-	-	-	-
2009 (H21)	12	12	3	8.9～113	2009 (H21)	1	1	0	5.8
2010 (H22)	89	89	6	0.16～110.31	2010 (H22)	5	4	0	<0.22～14.3
2011 (H23)	47	44	7	<0.22～126.9	2011 (H23)	-	-	-	-
2012 (H24)	47	47	1	0.31～113.3	2012 (H24)	-	-	-	-
2013 (H25)	46	46	1	0.1～124	2013 (H25)	-	-	-	-
2014 (H26)	47	43	0	<0.3～26.4	2014 (H26)	-	-	-	-

注 1：定量下限値（報告下限値）PFOS 0.04～0.2ng/L、PFOA 0.07～0.15ng/L（年度により異なる）

注 2：直鎖体と分岐異性体の合計値を採用

出典：環境省 要調査項目等 存在状況調査結果 (<http://www.env.go.jp/water/chosa/index.html>)

表 5 公共用水域等における PFOS 及び PFOA の検出状況  
 (平成 21 年度～令和 2 年度化学物質環境実態調査 (モニタリング調査))

年度	測定地点数	検出地点数	指針値 (暫定) (50ng/L) の超過状況	濃度範囲 (ng/L)
			超過地点数	
2009 (H21)	49	49	0	0.33～37
2010 (H22)	49	49	1	0.22～240
2011 (H23)	49	49	1	0.48～60
2012 (H24)	48	48	0	0.35～30
2014 (H26)	48	48	0	0.14～30
2015 (H27)	48	48	0	0.57～21
2016 (H28)	48	48	0	0.26～27
2018 (H30)	47	47	0	0.16～31
2019 (R1)	48	48	0	0.17～14
2020 (R2)	46	46	0	0.27～18

注 1 : 定量下限値 PFOS 0.029～0.08ng/L、PFOA 0.05～0.17ng/L 検出下限値 (報告下限値) PFOS 0.011～0.03ng/L、PFOA 0.02～0.055ng/L (年度により異なる)

注 2 : 調査結果は有効桁数 2 桁で処理した値を掲載しているため、「PFOS+PFOA」の値は必ずしも「PFOS」及び「PFOA」の結果の合算値とは一致しない。

注 3 : 直鎖体のみを測定値を採用

出典 : 環境省 化学物質と環境 (<http://www.env.go.jp/chemi/kurohon/>)